

『すてきなひとりぼっち』

弘前市立東小学校

山本千瑞

この本は家でよく図書館に行った時、私が見つけてかりてきました。三年生になって、クラスがえがあり、私は教室で一人ぼっちになる事が多くなりました。この本の題名が、『すてきなひとりぼっち』だったので、私と同じかなと思っ
てかりてみました。

主人公の男の子は、教室でも帰り道でも一人ぼっちでした。男の子が転んでもだれも気づきません。そのページを読んでかわいそうだと思いました。私が転んだら、みんな気づいて大丈夫と声をかけてくれるからです。

ある日男の子が家に帰ると、カギがかかっていました。その日は雨で帰り道転んで足にけがを負いました。男の子はしやがみこみ、ぼくはずっと一人ぼっちなのかなと思いました。でも男の子は立ちあがり、町へお母さんをさがしに行きます。私はそのすがたを見て、ゆうかな男の子だなと思いました。町に出ると一びきのカメと出会い、そのカメも一人ぼっちだったので、男の子はカメと一緒にお母さんをさがすことにし

ました。でも、こんどはまいごになってしまいます。その時、一人のおばあちゃんが買ったじやがいもが転がってしまいました。それを男の子がひろってあげます。その時おばあちゃんが男の子のけがやよごれたふくに気がつきます。いつの間にか人が集まっていて、もう男の子は一人じゃなくなっていました。お母さんのこともけいさつがつかれてきてくれました。お母さんと会えてよかったし、町の人がやさしくてよかったなと思いました。

夜ごはんは、カレーを家でよくみんなでこにこしながら食べている絵があつて、デザートは、シュークリームを食べていました。その様子を見て、家では一人ぼっちじゃないんだなと思ひ、ほっとしました。

私が一番すきな場面は、さいごのページです。その場面は朝でも夜でもないような、月と太陽がでている空です。私はもう男の子は一人じゃないと思ひました。私にも家でよくいて、友だちがいて先生がいて本当によかったと思ひました。